

故きを温ねて、新しきを知る  
帯広葵学園のあしあと

## 「あおいキッズサッカークラブ」

の活動を再開します

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

今年4月から休止していた「あおいキッズサッカークラブ」の活動を再開します。現在、改めて部員を募集しますが、練習初日は10月5日(土)午前9時から始めます。会場は、帯広の森幼稚園です。指導陣について説明します。責任指導者は佐藤雅浩さんです。佐藤さんは、JFA公認キッズ(U-6)リーダー資格を持ち、大空サッカー少年団で監督も経験をしていました。また、帯広の森幼稚園の前身である葵南幼稚園の卒園児です。更には、佐藤さんのお子さん二人は帯広の森幼稚園の卒園児ですから、帯広葵学園とは縁の深いサッカーコーチです。

もう一人のコーチは、早川昌映さんと言います。早川さんは、鹿追わっこFCの元監督としており、JFA公認C級コーチの資格を持っています。この他に、帯広学園の有資格者を含めてサッカー指導のできる職員1名が練習日には必ず交代で指導に当たります。

この9月15日、学園がスポンサーとなるキッズサッカー大会「あおいとりカップ」が、十勝少年サッカー連盟の主催で開催されました。残念ながら、今年は葵の子どもたちは参加できませんでしたが、来年は必ず参加したいと思っています。みなさんには、部員募集や運営にも特段のご協力をお願い致します。

## 大空にサッカーの輪を



夏に開いたボランティアのサッカー教室に参加した児童らと佐藤さん(中央)

### 佐藤雅浩さん(51)10月から教室 年小から中3対象

帯広市の会社員佐藤雅浩さん(51)が10月から、年中から小学3年生までの児童を対象とした「大空サッカー教室」を市内の大空公園で開く。「経済的な理由や家庭の事情でサッカーを諦めてはほしくない」と、サッカー少年が気軽に参加できる教室を立ち上げた。(高井翔太)

佐藤さんは帯広大空小学5年の時に少年団に入り、サッカーを始めた。帯広大空市を経て、帯広柏葉高でもサッカー部に所属し、攻撃的なポジションで活躍。大学卒業後地元に戻り、社会人チームをつくり楽しんで、長男が生まれ競技から離れたが、36歳の時に次男が通う幼稚園で指導者として、再びサッカーに関わるようになった。教室立ち上げのきっかけは、コーチとして少年団の指導をしていた時のことだ。家庭の事情で少年団に加入していない児童が、練習終わりにグラウンドに来て、一緒にサッカーすることがあった。

「サッカーが好きで、「教えて、教えて」と意欲で、指導に飢えているような感じでした。この子どもたちがサッカーを楽しめる環境をつくりたいという気持ちが高まってきました。

佐藤さんは6月下旬から8月末までの週1回、大空公園で低学年の児童ら30人ほどに教え始めた。「一緒にできて、ただただ楽しかった」と佐藤さんは振り返る。当初は10回目で終わる予定だったが、冬は利用料がかかる屋内施設がないと教室を開くのが難しいからだ。

しかし、保護者からは継続を望む声が、そこで安心して活動を続けるため、子どもの傷害保険と利用料の負担を軽減できないか支援を模索。支えてくれる団体が見つからず行き詰まり掛けたところ、自身が幼稚園のチームのコーチとして携わる帯広葵学園から援助を受けられるように、親交のあったフットサルチーム「フルプレーサー」の役員からも賛同を得て、選手が練習に来られることになった。

大空地区の年配者の中には、サッカーの経験者もいる。佐藤さんは、いずれはその人たちが子どもたちを見守りながら教え、自然とサッカーに取り組む人が増えていくことを思い描く。教室は月2回程度、11月からは市内の屋内施設「すばく帯広」(南町南9線)で行う。参加料は1回300円で入会金不要。傷害保険は葵学園が負担。定員30人。問い合わせは佐藤さん(090・33395・2445)へ。